

表紙解説

小泥谷阿弥陀板碑

堅田・泥谷の奥に小泥谷の集落がある。佐伯惟治の文書を所蔵する河野家、大神系図（西米良の佐伯氏）を所蔵する大神家があつて、中世佐伯氏にゆかり深い土地柄である。庵の跡と思われる高台の下に墓地があり、大神家の元祖・佐伯惟古の墓を調査中に偶然、板碑の年号を確認したものである。天文一二年（一五四四）梅牟礼合

戦より一七年後の造立である。

最上部の月輪に阿弥陀如来の梵字キリクを刻み、上段中央に南無阿弥陀佛の法号、両サイドに仮名文字の御詠歌、下段に造立の趣旨と功德を刻んでいる。当時の阿弥陀信仰を伝える貴重な石文である。

（灰石製 高さ三・五尺 幅一・五尺 台座別）

案内 汐月三代吉 拓本 宮下良明 解説 佐藤 巧

卍

南無阿弥陀佛

明月照す鏡の本に来て  
曇る此世の弥陀を頼まん

百万のねがひハ  
地蔵車なり  
弥陀のちからに  
すがりけん

欽奉唱阿弥陀法号百万返

叭伸供養者也 自惟癸卯今日伏願

善根預修七分全徳功德主心月水鏡

信男妙眞信女為奉現世安穩後世造立

石塔一基以伏願依此功力一脱醍醐妙薬八

識□□而速證□□蓮基□□□□□□

念混繫法界到菩薩彼岸者也 法典曰

功德成林百年久植善根之種解説開道三身

共學覺花苞乃至法界平等利益也 喝一喝

旨天文十二年 癸卯七月 如意珠日

白 敬

阿弥陀板碑解説文